

# 平成28年度 ハワイ大学短期研修 報告書



長崎大学病院

実習期間：平成28年9月24日～10月2日

研修場所：ハワイ大学 ほか

## 平成28年度ハワイ大学短期研修者

No. (50音順)	年次	氏名	現研修病院	研修時の診療科
1	2年次	I	佐世保市総合医療センター	腎臓内科
2	2年次	E	長崎原爆病院	循環器内科
3	2年次	S	長崎大学病院	リウマチ・膠原病内科
4	2年次	T	長崎原爆病院	呼吸器内科
5	2年次	N	長崎原爆病院	内科
6	1年次	U	長崎大学病院	精神科神経科
7	1年次	S	長崎大学病院	循環器内科
8	1年次	S	長崎大学病院	小児科
9	1年次	N	長崎大学病院	内分泌・代謝内科
10	1年次	H	長崎大学病院	麻酔科
11	1年次	M	長崎大学病院	放射線科

※ 指導医 宮本 俊之 (医療教育開発センター 医科卒後研修部門長)

# 平成28年度 ハワイ大学短期研修日程表

日付	地名	時刻	交通機関	コース
1 09/24 (土)	福岡 ホノルル	19:00 08:35	DL598 ツアーバス	福岡空港にて、各自、チェックイン 出国手続き後、デルタ航空直行便にて、ホノルルへ 到着後、入国手続き、1階ターンテーブルにてお荷物のお受け取り、税関検査通過後、 係員がお出迎え、ワイキキホテルへ ご案内チェックイン後、自由行動 (ホテルのお部屋は原則、15:00~となりますが、お早めに入室いただけますようホテルへリクエストを上げております。)
2 09/25 (日)	ホノルル			終日、自由研修
3 09/26 (月)	ホノルル			終日、研修
4 09/27 (火)	ホノルル			終日、研修
5 09/28 (水)	ホノルル			終日、研修
6 09/29 (木)	ホノルル			終日、研修
7 09/30 (金)	ホノルル			終日、研修
8 10/01 (土)	ホノルル	12:25	ツアーバス DL598	係員がホテルより、空港へご案内 て出国手続きを終えデルタ航空直行便にて、一路、帰国の途へ
9 10/02 (日)	福岡	17:15		福岡空港到着後、入国手続、税関検査後解散 おつかれさまでした

ご利用航空会社 DL: デルタ航空

ご利用ホテル WAIKIKI SAND VILLA HOTEL

(お部屋指定なし) ツイン3室+パーマメントトリプル2室) ワイキキ サンド ヴィラ ホテル

2375 Ala Wai Boulevard Honolulu Hawaii 96815-3448

Tel (808) 922-4744 Fa x (808) 926-7587

現地旅行社

※各交通機関の諸事情により、時間が変更になる場合がありますのでご了承ください

## 【研修 1 日目】

全員そろってハワイ大学へ出発しました。



Benjamin W. Berg教授のintroductionから  
ハワイ研修がスタート。もちろん全て英語です。



研修前日！  
全員で研修の成功を祈念して、団結式を実施しました。



<1日目>

- Medical English
- Orientation to the simulator
- Simulation in Medical Education
- Patient safety
- US residency program & healthcare
- Day 1 Course Evaluation

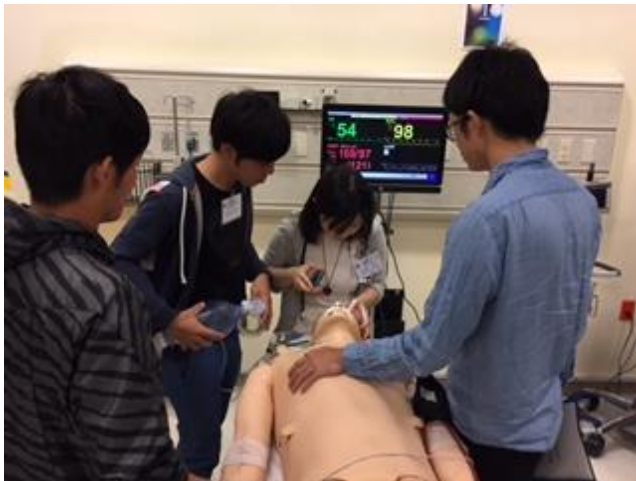


人形を使ったBLSとACLSのシミュレーションの様子。言葉を英語にすることで難易度が何倍も上がり、医療英語の語彙力の無さを痛感しました。  
その後、ヒューマンエラーの発生とその対策の講義を受けました。

## 【研修 2 日目】

<2日目>

- One Night On-Call
- Triage



one night on callとtriageに関する実践的なチーム形式のシミュレーション。様々なシチュエーションを経験し、知識はあっても行動に移すことの難しさを感じました。チーム内での役割分担の重要性や言葉にする大切さを学びました。

## 【研修 3 日目】

<3日目>

- Crisis Team Training
- 施設見学

Transportation to Castle Medical Center  
Castle Medical Center Site Visit



救急対応のシミュレーション。  
シミュレーション中の行動が録画されていて、  
客観的に振り返りを行うことができました。

Castle Medical Centerの見学では、  
病院の仕組み、地域との関わり、コメ  
ディカルとの関係性など日本との違いを  
学びました。



## 【研修 4 日目】



<4日目>

- Pediatric Emergency Cases
- Difficult Airway Management
- Program Review and Evaluation



積極的にコミュニケーションを図ることはとても重要性。米国では発言しないと理解していないと見なされます。みんなで、積極的にディスカッションしています！



## 【研修 5 日目】



ハワイ州のDMATセンターは連邦政府、ハワイ州政府からの出資はあるものの、政府とは独立して動いていること、また傷病者の詳細の連絡にインターネットを利用していること、DMATチームの判断で、連邦政府の判断を覆せることなど強力な権限を持ち、一元的に管理していることなど、日本のシステムとは全く異なることに驚きました。

## <5日目> 施設見学

### ・DMAT Hawaii

ハワイのDMATセンターに行きました。人員配置、設備、備蓄にいたるまで数々の災害を経験しているアメリカならではのスケールの違いに圧倒されました。



研修後はBerg教授と懇談会。  
最後まで充実した研修でした！





## 【研修を終えての感想（抜粋）】

●終わってみるとあっという間の1週間でした。研修が始まる前は英語のコミュニケーションなど自分が研修を無事に終わられるのか不安でしたが、振り返ってみるととても楽しく研修ができたのではと思います。この1週間で一番感じたのはチーム医療の大切さです。お互いにコミュニケーションを取り合い、どのような役割を果たせばチームが上手く機能するか、患者さんのために繋げて行きたいです。

●このハワイ研修では、救急医療の訓練はもちろんだが、それ以上に、チームワークやコミュニケーションの難しさを感じた。医療において知識はもちろんであるが、それぞれが個々に考えがあっても、それをみんなで力を合わせることで、何倍も安全で適切で迅速な対応ができることを学んだ。短い期間ではあったが、大変貴重な経験をさせていただいた。あらゆる面でサポートしてくださった、宮本先生をはじめ、スタッフの方々には心より感謝申し上げます。

●研修期間中は互いに話し合っってフィードバックをもらってまた話し合っって夜にはミーティングをして寝る前には感想をまとめて…と自分の考えを口に出し言葉にする機会が何度もありました。普段の大学での研修ではオーブンと1対1で話し合ったりカンファランスで質問への受け答えをしたりといったことはあっても、なかなかグループでそれぞれが自分の意見を発言するといった機会は少ないように思います。私自身とくにグループ内で発言することが苦手で、ある程度知った先輩や友人間では意見できても割り当てられたグループ内では当たり障りのないような発言をしていたと思います。診断や治療に直接つながるようなポジティブな意見だけでなく、自分がパニックになっているときに助けを求めることや持っている情報を共有すること、それぞれの役割を確認すること。コミュニケーションを円滑にすることで最善の対処ができるということを感じました。

●英語で発言し先生達とディスカッションできたのが非常にいい経験になりました。また、将来の留学への大きなモチベーションとなりました。全日程を通して感じたことは、言語の壁を越えれば医学という共通認識のなかで対等なやりとりが可能であるということです。医療英単語や独特の言い回しなどを習得しようという新たな目標ができたことも今回の研修での収穫でした。このような機会を設けていただいた医療教育開発センターのみなさんに心から感謝いたします。ありがとうございました。

● 今回のハワイ研修では非常に多くの収穫が得られた。まず個人的なことから言えば、ほとんど海外経験のない自分にとって海外にいること自体が貴重な体験であった。また、自分の英語がどの程度のものであるのか確認することができた。恥ずかしい話だが、Listeningは7割程度、Speakingは1割未滿しかできなかったと思う。この悔しい気持ちを新たなモチベーションとしたい。本研修のKey wordを2つ述べたいと思う。それはCommunicationとFor the patientだ。自分が考えていることを言葉で表現すること（= Communication）。これまで蔑ろにしていた自覚はなかったが、今回の研修で全く不十分であることを知った。目の前の患者に最大限の利益をもたらすためには、勇気を持って堂々と自分の意見を口に出すことの必要性を学んだ。2つめのKey wordである、For the patientの精神がある。Dr.Leeとのチームトレーニングで何度かこの言葉が出たが、その意味は、患者の命を救うためにあらゆる努力を惜しむべきではない、ということである。これは医療従事者の基本姿勢とも言えるべき考え方であり、文化は異なるが医師の根本哲学は日本でも海外でも同じであると再確認できた。

● 研修では様々なシチュエーションでのチームの活動を行い、最初はチームとしてうまく機能できていませんでしたが、徐々にコミュニケーションも増え、より円滑にシミュレーションを行えるようになりました。チームでの活動において、チームワークやコミュニケーションが重要であるということは分かっていましたが、実際の活動の中でチームがうまく機能することの難しさや、コミュニケーションを積極的に行うことの難しさを改めて感じました。英語でのコミュニケーションや様々なシミュレーションを経験でき、5日間を通してとても楽しく充実した研修になったと思います。今後はこの研修で学んだことを、実際の臨床現場で活かせるよう頑張っていきたいです。

● 救急対応を学ぶことが中心でしたが、初めから疾患名がわかって病院に来る方は紹介患者を除いていないので、そういった意味での初期対応、また医療従事者間のコミュニケーションの大切さ、思ったことを口に出して、医療者間で連絡を取り合い、時にディスカッションを行うことの大切さを学んだ5日間だったように感じました。

● ハワイ研修を通して学んだのは、コミュニケーションをとることの大切さである。小さな事の積み重ねでミスは起こる。シミュレーション中にも、コミュニケーション不足で当たり前できていないといけない処置を忘れていた。思った事は口に出さないと伝わらない。今まで自分はグループ内で発言する事が苦手で避けてきたが、それは患者さんの不利益に直結すると感じた。「for the patient」というのを一番に考え、英語・日本語に関係なくチームの人達とコミュニケーションをとりながらより良い医療を提供したい。

●5日間を通して1番学んだことはコミュニケーションの大切さである。自分の頭の中だけにある考えは言葉に出さないと相手に伝わらないし、議論にもならない。全ては for the patient であり、自分の発言の間違いを恐れて黙ってはいけなことを学んだ。

また同時にコミュニケーションの楽しさを学んだ。この5日間を通して英会話が楽しくなった。ハワイでは質問した際、that's a good question と肯定し、発言しやすい環境を作ってくれる。日本に帰ってもコミュニケーションを取る相手が話しやすい会話をするよう心がけようと思う。非常に充実した1週間であった。

●ハワイ研修を通して海外と日本の医療の違いを経験し、将来、留学するためのステップになれば良いと思い、参加させて頂きました。最も違いを感じた点は、医療システムはもちろんですが、積極性と細かいコミュニケーションが強調されていることでした。失敗してもいいので、頭で考えていることを言葉に出してみることで、チームが気づかず抜け落ちていた大切な情報を得るきっかけになり、医療事故を減らせることにつながると身をもって体験しました。

研修医という医者へのベースを形成する時期に、ハワイ研修で学んだことはこれからの医者人生で役立つ大きな財産になりました。

●ハワイ大学での研修での一番の収穫は間違えることを恐れないことだと思う。どんなに簡単な間違いでも先生達は叱ったりせず、また単純に正解だけを言うのではなく、どうしてそう思うのか、こうしたらどうなると思うなどきちんとコメントを添えて、また自分で考えて正解に導けるように指導してくださった。日本にいる時は失敗を恐れるあまり、自分自身でも積極性にかけて感じていたが、ハワイ研修後には間違ってもいいし、自分はこう思っているからこう考えるのだと自分の考えを相手にきちんと伝えるように変化してきた。そして、少しずつではあるが積極的な行動ができるようになってきたと思う。1週間という短い期間では完全には自分の行動を変化させることは難しいが、残りの初期研修生活においてハワイ大学で学んだことを胸に頑張っていきたいと思う。



長崎大学からハワイ大学での研修が始まって8年目となりました。毎年変化しているものもありますが、変わらないことは研修医たちの熱意と学習意欲です。今年も例年通りの高評価をいただき、私としては嬉しい限りです。active learningを自ら体験した研修医たちは今後どんどん成長してくれると確信しています。

Mahalo